

日本全国の廃材をスキンケア原料化で環境保全

SATICINE MEDICAL

サティス製薬

1999年に設立し、化粧品OEMメーカーとして800ブランドの開発・生産を手がける。さまざまなブランドを共創して多様なマーケットで価値を創造することが多くの女性に「正しいきれい」を届けることにつながると考えている。2009年には日本の天然物を用いた化粧品原料開発事業「ふるさと元気プロジェクト」をスタート

DESIGN: JIRO FUKUDA, TEXT, EDIT & ILLUSTRATION: WAKANA NAKADE

数多くのブランドのOEM製造を手がけるサティス製薬は、あらゆる肌悩みを解決するため、化粧品の処方開発技術を軸としたモノづくりを行っている。そして化粧品開発においては原料開発技術でも大きな一翼を担う。同社は原料開発のために日本全国の植物や海産物といった特産品から素材を厳選しており、その背景には、各農産地で美容には高い効果があるにもかかわらず売れ残りや食用にできないとして山のように廃棄される農作物の廃材があるという。そこで同社では地域特産品から化粧品を製造し、ふるさとに貢献する地域活性化プロジェクト「ふるさと元気プロジェクト

(FGP)」を2009年に開始した。

「OEMだからこそ、環境負荷低減や地方創生に貢献する意義がある」と山崎智士社長。サティス製薬は800以上のブランドと取引をしているため、800ブランドとその先のユーザーにまで共感者を増やすことができる。その影響範囲は広く、効果的に貢献できる立場にいます。環境保全に先導的に取り組んでいる。「重要なのは“市場の創造”。廃材をゼロにするための化粧品原料化技術があるだけでは意味がなく、廃材を提供してくれる人、そして技術から生まれた化粧品に共感して消費する人の存在も必要。素材の“調達”と“提供”が

できる取引の場=市場がなければ環境保全は一過性のものになる」と話す。そして市場を創造するのに重要なのが多様性だ。同社は生活者の「きれいになりたい」というあらゆるニーズに応えるために製品・技術・素材も多様であることが大事だと考え、取り扱う素材を増やし、抽出できる美容成分・効果を多岐にわたり網羅している。

全国各地にはまだまだ未利用資源があふれている。FGPで連携をする全国の生産者、さらにそこから生まれる化粧品を通じてブランドや消費者とともに廃材をゼロにするための市場の拡大を目指す。

全国の生産者と連携する「ふるさと元気プロジェクト(FGP)」

「FGP」は、日本全国のさまざまな天然素材をスキンケア原料化することで生産地の活性化とあらゆる人の「肌のきれい」を目指すプロジェクト。研究員が各土地に赴いて実際に素材を目で見て、肌への有効性を発揮する可能性を持つ資源を探す。「FGP」では未利用資源を化粧品原料の“もと”として選定するほか、素材から成分を抽出する工程でも廃棄物が増えない手法をとるなど、環境負荷を低減する工夫をしている。これまで、未利用資源を中心として90種以上の特産品から原料化を進めてきた。ここでは「FGP」で見出した開発原料例の一部を紹介する。

長野

こけも若葉の活性型アルブチン

芽摘みによって捨てられてしまう、スーパーフード。こけも若葉から葉緑体保護成分である7種の植物性アルブチンを抽出。メラニン産生抑制作用による美白に加え、真皮細胞外マトリックス産生促進作用でエイジングケアも期待できる



鹿児島

徳之島みかんノビレチン

スーパーフードであるシークワサーの野生種とされている、徳之島にのみ古来より自生する「徳之島みかん」の搾汁残渣を活用。高浸透ノビレチンを多く含む、肌のはりやしわ改善、美白作用が期待できる

群馬

五色有機米の アミノ酸エキス

オリジナルの有機農法により生産された有機米の未利用資源「米ぬか」。玄米の栄養素の9割が含まれるといわれる米ぬかと、長寿米として珍重されてきた古代米から独自製法で生み出されるアミノ酸とポリフェノール含有原料は保湿・抗糖化効果が期待できる

高知

四万十ふしゅかんヘスベリジン

四万十川流域のみで栽培されている幻の柑橘「四万十ふしゅかん」の搾汁残渣を活用。細胞が過剰にメラニンを抱え込むのを抑制する高浸透型ヘスベリジンを含み、抗炎症美白効果と抗老化効果が期待できる

北海道

亜麻花の 天色ポリフェノール

茎はリネン(繊維)に、種は亜麻仁油(健康食品)に使われる「亜麻」の散りゆく花に着目。花に含まれる美肌成分の天色ポリフェノールが真皮細胞のオートファジーを活性化し肌細胞を再生することでしわやたるみ改善が期待できる

茨城

植物ヒト型セラミド

食用されず廃棄されていた栗皮を活用し、世界で初めて植物から化粧品原料「ヒト型セラミド」の開発に成功。肌のセラミドを“与える＆作る”サポートを行い、肌の保湿やバリア機能、キメを改善する

COMMENT

小田喜保彦 / 小田喜商店社長

栗皮はむき栗の生産の際に生じる副産物で、これまで活用法もなく廃棄されていました。しかし2016年に栗皮にヒト型セラミドが豊富に含まれていることが判明し、高い肌バリア機能が期待できるというにはとても驚いたと同時に誇らしくも思いました。日本の素材に着目した農業の発展にもつながるプロジェクトはとても貴重で、今後も植物の可能性を探究してくれるとうれしいですね。

栗の生産を手がける

化粧品購入で生産地を応援する「つなぐキレイマルシェ」始動

「ふるさと元気プロジェクト」の一環として、日本の天然素材を活用したスキンケア商品の購入で生産地を応援できるキュレーションサイト「つなぐキレイマルシェ」をクラウドファンディング「キャンプファイヤー」内にオープン。集まった支援金は天然素材の需要低下や農業漁業の後継者不在などさまざまな課題を抱える生産地を応援するために活用される。また、肌をきれいにするだけでなく、ふるさとや地球のきれいを守りたいとの思いが込められている。1月に第1弾プロジェクトとしてライフスタイルブランド「アス・バイ・パパウオッシュ」のスキンケア「USS ボトルエッセンス」がプロジェクト達成をした。

COMMENT



生産地と直接つながり 環境と向き合う

黒木茉弥 / USS by papawash ブランドマネージャー

世の中に環境に配慮した成分や容器は増えていますが、生産者を直接支援できるものはまだまだ少ないと感じています。プロジェクトを通して生産地と直接つながることで、「肌(人)、ふるさと、地球のキレイをつなげていく」ことが実現できる点に共感し、大きな魅力を感じました。「つなぐキレイマルシェ」は購入者と生産者、ブランドと生産者の距離を縮められる取り組みであり、環境と向き合う姿勢や行動は、ファン形成に大きく影響すると思います。



「USS ボトルエッセンス」には福岡・朝倉市の特産農産物「紅タダ」から抽出された美容成分「ヤナギタデ芽エキス」を配合している

